**医療放射線被ばく説明書**

**放射性医薬品による検査（RI）を受けられる方へ**

本検査では、ごく少量の放射線を放出するお薬（放射性医薬品）を投与するため、僅かですが放射線被ばくを受けることになります。

**放射線がからだに及ぼす影響について**

放射線の影響には、確定的影響と確率的影響があります。確定的影響には、これ以上になると影響が生じる可能性があるしきい値（線量）が存在すると考えられています。一方、確率的影響は、主に発がんについて示されたもので、100ミリシーベルト（mSv）以下の低線量領域での影響は非常に小さく、被ばく線量と発がんとの関係は、確認されていません。



　当院で投与される放射性医薬品による被ばく線量は3～16mSv程度で、これらの線量を超える量を用いることはなく、放射線による影響はほとんどありません。

**検査の正当性**

放射線検査は、得られる医療情報による利益が被ばくによるリスクより十分に大きいと判断される場合に行われます。

**当院での被ばく低減の試み**

当院では、診断参考レベルといわれる患者被ばくの適正化に使用される指標を用いて、放射性医薬品の投与量を最適化しています。

済生会松山病院